

3D 計測エンパワメント・ワークショップ「3D 計測、誰のため? 何のため?」

発表報告

博物館における 3D 計測の可能性

橋口 豊

(横浜市歴史博物館)

業務でのひとコマとそれについて思うこと

学芸員は、来館者から日々いろいろな疑問・質問を投げかけられるのですが、その中でままあるのが「土器の裏や下の部分(見えない部分)ってどうなっているの?」というものです。これは土器に限らず展示資料全般に置きかえることができます。

理由を聞いてみると、「特に理由はないけれど見てみたいよね」という答えが返ってくる場合があります。

見えない部分を見てみたいという好奇心からなのでしょう。その資料に興味を持っているからこそその質問なので、何とかしたいとも思うのですが、例えば当館の縄文土器の常設展示は(写真 1)かなりの部分が見えるとはいえ、ご期待に完全な形で応えるにはなかなか難しいところがあります。

企画展示などでは鏡の上に乗せたり、四方が見える展示ケースに飾ったりすることもあります。しかし展示用具で資料の全てをありのままに見せるには限界があります。展示の意図で必要な部分以外を見せないようしている場合以外、なるべく全てを見せたいと思うのは、展示に携わったことのある人であれば一度ならず感じたことでしょう。

提言 1: 展示資料の補完として 3D モデルを活用しよう!

写真 2、3 は当館で実施した企画展示の写真です。展示ケースにかなりの奥行きがあり資料の全てを見てもらうのがとても難しいことから、土偶と人面付土器を展示したケースの前にタブレットを置き、それらの 3D モデルを見学できるようにしました。「全部見たい」という要求に応えるための試みです。

展示資料の補完として 3D モデルを活用することは、素朴な質問へ応える形だったとはいえ、資料の全てを見せることができる、展示を拡張させることができることから、研究者や市民サービスの点で重要では?と思っています。



写真 1



写真 2



写真 3

収蔵庫内には何がしまっているの？

博物館や資料館の収蔵庫内には各地域の歴史にとって重要な資料が膨大に収められています。それらを活用する方法として以下の3点が思い浮かびます。

- 1: 展示での活用
 - 2: 研究での活用
 - 3: 体験学習や学校教育等での活用
- いずれもこれまでは、見学に来てもらったり、持って行ったりすることで活用につなげていました。

一例として、3に当てはまりますが、当館の土器作り教室では実資料を準備し参加者に観察してもらいながら実施しています(写真4)。収蔵資料を外に出すことに関して、最大限注意は払いますがやはり怖い部分があります。



写真 4

提言 2: 収蔵資料のアーカイブとして 3D モデルを作ろう！

そこで、収蔵資料のアーカイブとしての 3D モデルを作製・公開することで見学に来てもらう、持って行くことに加えて、より多くの人が資料にアプローチしやすくなり、活用してもらえるのではと考えます。

しかし、現実として当館での収蔵資料の 3D モデル化は、ごく一部の資料でしか実施できておらず、公開して一般化はされていません。

コロナ禍での博物館活動

コロナ禍の状況下、来館を促すための数々の企画の立案や実施、ユニバーサルミュージアムの考え方に基づく展示手法など、これまでの博物館活動では当たり前だったやりかたを変える必要がある昨今です。

提言3:博物館を丸ごと3Dにしよう!

これまでよりも外出しづらいのであれば、展示室をまるごと3Dモデルにして、在宅で博物館を見学してもらえば良いのではと考えます。

提言2と合わせれば博物館資料について多くのことを、家にいながら知ることができるのではないのでしょうか。

上記の取り組みは、一部の館や施設では既に行われているものの、館によって進捗にばらつきが多く、当館でも今のところは夢物語と言った状況です。

まとめにかえて

前回の発表を文書にまとめさせていただきました。

3つの提言をさせていただきましたが、少しながら実行できているのは提言1のみであり、2・3については自分に言い聞かせるためという理由が多分に含まれています。

それぞれどのような形で実行できるか、皆さんのお知恵をお借りしながら進めてまいりたいと思います。